

安全で楽しい学校生活を

生活指導部 土田 順子

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催まで1年半を切りました。様々な施設の建設ラッシュで学校周辺の道路には登下校の時間帯に大型の工事車両が行き交っています。大型トラックの運転席から見ると、小さな児童は死角になりやすく、思わぬ事故に巻き込まれかねません。交通ルールを守ることは当然ですが、ドライバーと「アイコンタクト」(目を合わせる)をして横断するなど自分の身は自分で守ることができるよう指導しています。今年度も保護者の皆様の御協力により大きな事故もなく無事に終えることができそうです。これからも共に、子供たちの健やかな成長を見守っていただけたらと思います。

副校長より

「二つのコンサートから感じたこと」

副校長 菊原 寛之

1月22日(火)に行われた「弦楽四重奏アウトリーチコンサート」は子供たちと演者との交流に感激しました。弦楽器に関する問いかけやクイズといった演出の工夫により、会場が盛り上がりました。音楽に興味・関心をもって聴き、歌う姿が大変印象的でした。

また2月20日(水)には、東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部により創立140周年記念コンサートが行われました。約100人の高校生の演奏は圧巻でした。「ドラえもん」の主題歌で始まり、「USA」のダンス、ラデッキー行進曲では6年生代表の指揮者体験がありました。最後はふるさとの大合唱で、東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部の演奏と本校児童が一体となって大いに盛り上がりました。

二つのコンサートから、本校の児童は「打てば響く」「場の状況を察する」「共に進む」ことができると感心しました。曲調や楽器が醸し出す音色に合わせて一人一人が自然と歌い出すなど、素直な子供らしい姿が見られました。

アウトリーチコンサートでは、「となりのトトロ」の演奏が始まると自然と左右に肩をゆすりながら小さく歌い出し、曲の盛り上がりと共に全校の歌声が重なり合っており、最後は大合唱となりました。また、東海大学高輪台高等学校吹奏楽部演奏の「USA」では、「C'mon, baby アメリカ」のサビの部分は最高潮に盛り上がりました。聴いた音、その場の雰囲気を感じ、高輪台ダンサーと呼応したダンスと歌は「音を楽しむ」表現活動となっていました。

人間が他の動物と比較して圧倒的に優れているのは「心」「感性」です。二つのコンサートから、本校の児童の「心の成長」と「打てば響く豊かな感性」の高まりを実感しました。



ミニコンサート 2月 26日 プログラム

1. 3年2組 平松 丈偉 ピアノ独奏 「今」
2. 3年1組 磯崎 里桜 ピアノ独奏 「ふるさと」
3. 1年2組 高橋 愛 独唱 「おかあさん」
4. 3年2組 磯崎 里華 ピアノ独奏 「芝人ぬ宝」
5. 3年1組 長岡 嶺 ピアノ独奏 「西郷どん」

